

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2022 年 12 月 16 日 改訂日: 2022 年 12 月 16 日 前回の改訂日: バージョン:1.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 Turmogrease ALN 1001/0
製品コード ETA Lubricants

会社情報

仕入先

日本ヒルティ株式会社
神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎南 2-6-20
JP- 〒224-8550 〒
日本
T +81 45 943 6211 - F +81 45 943 6418

hiltijapan@hilti.com

安全データシート発行部門

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH
Hiltistraße 6
DE- 86916 Kaufering
Deutschland
T +49 8191 906876

anchor.hse@hilti.com

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 Schweizerisches Toxikologisches Informationszentrum – 24h Service
+41 44 251 51 51 (international)
+81 45 943 6211

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康有害性 生殖毒性(授乳に対する又は授乳を介した影響) 追加区分
環境有害性 水生環境有害性 長期 (慢性) 区分 3

ラベル要素

危険有害性 (GHS JP) 授乳中の子に害を及ぼすおそれ (H362)
長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

安全対策

妊娠中／授乳期中は接触を避けること。(P263)

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

環境への放出を避けること。(P273)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
Alkanes, C14-17, chloro (MCCP)	0.1 – 1	$C_xH_{(2x-y+2)}Cl_y$	-	-	85535-85-9
Amines, C11-14-branched alkyl, monohexyl and dihexyl phosphates	1 – 2.5	-	-	-	80939-62-4
Dec-1-ene, homopolymer, hydrogenated	≥ 80	-	-	-	68037-01-4

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般

少しでも疑いがある場合、または症状が続く場合は、医師を呼ぶ。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸器系疾患を発症した場合:毒物センターまたは医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触後、汚れた、または跳ねによる染みのついたすべての衣服をすぐに脱ぎ、直ちに大量の水で洗う。

皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。

眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

気分が悪い場合は医師の診察を受ける。

口内を水ですすぐ。

水を大量に飲ませて下さい。

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 利用可能なデータはない。

医師に対する特別注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 追加情報なし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 二酸化炭素, 砂, 乾燥粉末消火剤, 泡消火剤

使ってはならない消火剤 水, 強力な水噴流, 強い水流は使用しないで下さい。

火災時の危険有害性分解生成物 二酸化炭素,
一酸化炭素

消火時の保護具 [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。

その他の情報 環境中に消火剤を廃棄しない。
製品を環境中に放出しない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 漏出物質により滑る危険がある。

非緊急対応者

保護具 No information available.

緊急対応者

保護具 詳細については、第 8 項の「ばく露制御/個人保護」を参照。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 環境への放出を避けること。
排水溝または水路への侵入を防ぐ。
本液体が下水溝、水の流れ、地下、基盤に流れ込まないようにする。

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法	(帚で掃除したり、シャベルでかき回したりしながら)道具を使って集め、廃棄のために、適切な容器に入れる。 不活性バインダーで液体を吸収すること。 粘土あるいは珪藻土のような不活性な固体を使って、できるだけ早く、拡散した製品を吸収する。
------	--

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	データなし
安全取扱注意事項	妊娠中／授乳期中は接触を避けること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 飲食前、喫煙前、または作業終了後は、手および汚染箇所を低刺激性石鹼と水で洗浄する。
接触回避	データなし
衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 製品取扱い後には必ず手を洗って下さい。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 飲食前、喫煙前、または作業終了後は、手および汚染箇所を低刺激性石鹼と水で洗浄する。

保管

安全な保管条件	直射日光、高温および高湿度を避けるようにしてください。 温度-20℃...40℃、湿度 45... 85 % の涼しい場所に保管してください。
安全な容器包装材料	データなし
保管場所	湿度と水から保護すること。
包装材料に関する特別な規則	他の容器に移し替えないこと。 密閉容器に保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

保護具

個人用保護具	保護メガネ, 手袋
保護着の材質	ブチルゴム製の保護手袋, ニトリルゴム
眼の保護具	EN 166

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

皮膚及び身体の保護具

適切な手袋を着用のこと。

個人用保護具シンボル



環境へのばく露の制限と監視

使用中は飲食禁止, 製品を環境中に放出しない。

消費者へのばく露の制限および監視

妊娠中/授乳期中は接触を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	黄ベージュ
臭い	データなし
pH	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点	> 300 °C
引火点	> 200 °C
自然発火点	データなし
分解温度	> 200 °C
可燃性	データなし
蒸気圧	< 0.1 hPa
相対密度	データなし
密度	0.85 g/cm ³
相対ガス密度	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	データなし
爆発限界 (vol %)	データなし
動粘性率	データなし
粒子特性	データなし

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

10. 安定性及び反応性

反応性	追加情報なし。
化学的安定性	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	強酸。 強塩基。
避けるべき条件	利用可能なデータはない。
混触危険物質	強力な酸化剤。
危険有害な分解生成物	二酸化炭素, 一酸化炭素, 毒性ガス。

11. 有害性情報

その他の情報	No information available
急性毒性 (経口)	データなし
急性毒性 (経皮)	データなし

Turmogrease ALN 1001/0	
LD50 経口 ラット	> 2000
LD50 経皮 ラット	> 2000
Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】 (1) ~ (3) より、区分に該当しない。【根拠データ】 (1) ラットの LD50 : > 15,000 mg/kg (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015)) (2) ラットの LD50 : > 4,000 mg/kg (EFSA (2019)、AICIS IMAP(2015)) (3) ラットの LD50 : > 10,950 mg/kg (REACH 登録情報 (Accessed May 2021))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】 GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉末)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 4000 mg/kg bodyweight (Rat, Male / female, Experimental value, Oral, 14 day(s))
LD50 経口	15000 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	> 13500 mg/kg bodyweight (24 h, Rabbit, Read-across, Dermal)

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
LC50 吸入 - ラット	> 48.17 mg/l air (1 h, Rat, Read-across, Inhalation (vapours))

Amines, C11-14-branched alkyl, monohexyl and dihexyl phosphates (80939-62-4)	
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性 データなし

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 データなし

呼吸器感受性 データなし

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
呼吸器感受性	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

皮膚感受性 データなし

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
皮膚感受性	【分類根拠】 (1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】 (1) 本物質 (塩素含有率 : 40%) について、モルモット (n=20) を用いた Maximisation 試験 (皮内投与 : 20%溶液) において、惹起 48 時間後の陽性率は 5% (1/10 例) であり、原液で再惹起したところ陽性反応はみられなかったとの報告がある (AICIS IMAP (2015)、REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (2) 本物質 (塩素含有率 : 40%及び 45%) について、モルモットを用いた Maximisation 試験 (皮内投与 : 5%溶液) において、惹起 24、48 時間後に陽性反応はみられなかったとの報告がある (AICIS IMAP (2015)、REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。

生殖細胞変異原性 データなし

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
生殖細胞変異原性	【分類根拠】 (1) ~ (4) より、区分に該当しない。【根拠データ】 (1) マウスの骨髄細胞を用いた小核試験(OECD TG474、GLP、塩素含有率：42%及び45%)において、陰性の報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015)、REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (2) ラットの骨髄細胞を用いた染色体異常試験(OECD TG475、GLP、塩素含有率：40%)において、陰性の報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015)、REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (3) 細菌復帰突然変異試験 (OECD TG471 相当、塩素含有率：42%)において、陰性の報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015)、REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (4) 利用可能な試験結果から総合的に判断し、本物質に遺伝毒性はないものと見解を示している (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015))。
発がん性	データなし
Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
発がん性	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
生殖毒性	授乳中の子に害を及ぼすおそれ



Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠



Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

<p>生殖毒性</p>	<p>【分類根拠】 (1) ~ (3) より、区分 1B とし、授乳影響を追加した。なお、(1) では親動物に一般毒性影響がみられない用量で児動物に生存率低下や皮下の血腫/出血がみられ、(2) 及び(3) では、生後の哺育期に母乳を介して本物質又は代謝物が児動物に移行し、血液凝固障害を生じ、出血傾向、内出血や死亡を生じることが示唆された。【根拠データ】 (1) ラットを用いた混餌投与による一世代生殖毒性試験において、90 mg/kg/day 以上の用量で児動物に生存率減少、皮下の血腫/出血がみられたとの報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015))。 (2) 雌ラットの妊娠期間中に投与 (6,250 ppm : 560 mg/kg/day) し、哺育期間中も同様に投与された群、並びに妊娠期間中の投与後に対照群から生まれた出生児を 6,250 ppm の餌で哺育した群の 2 群では、対照群の餌を妊娠及び哺育期間を通して投与した母動物から生まれ育てられた群、投与群から生まれた出生児を対照群の母動物に哺育された群と比較して、F1 児動物の死亡率の増加 (67%及び 77%) と内出血の頻度増加 (8%及び 17%) がみられた。これらの群の児動物では血中第 X 凝固因子の減少がみられ、乳汁移行した本物質又は代謝物が新生児のビタミン K 依存性凝固系を阻害した、あるいは母動物の乳汁中のビタミン K を減少させ、その結果、児動物に凝固障害を引き起こす可能性が示唆された (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015))。 (3) ラットにおいて、中鎖塩素化パラフィン (MCCPs) は投与した母親から生まれた授乳中の新生児で凝固系を障害する。授乳中の新生児における出血影響はビタミン K 欠乏の持続の結果として生じ、EFSA の専門家パネルはこの現象はヒトにも当てはまると結論付けた (EFSA (2019))。【参考データ等】 (4) ラットを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (OECD TG414、妊娠 6~19 日) において、発生毒性はみられなかったとの報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015))。 (5) ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験 (OECD TG414、妊娠 6~27 日) において、発生毒性はみられなかったとの報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015))。 (6) ラットを用いた混餌投与による生殖/発生毒性スクリーニング試験 (OECD TG 421 相当、交配 28 日前~哺育 21 日) において、生殖毒性はみられなかったとの報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015))。 (7) 英国ロンドンとランカスターの 18 人の女性からの母乳サンプル 25 検体から中鎖塩素化パラフィン (MCCPs) を検出可能であった。その値は 6.2~320 ng/g 脂肪で、中央値は 21 ng/g 脂肪、97.5%タイル値は 130.9 ng/g 脂肪で、地域による差はなかった (REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (8) 無作為に選択したヒトの母乳サンプル 22 検体中 1 検体で本物質が検出レベル以上 (61 ng/g 脂肪) であった (REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。 (9) EU では Lact. に分類されている (CLP 分類 (Accessed May 2021))。</p>
-------------	---

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データなし

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データなし

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>【分類根拠】 (1) ~ (3) より、区分 1 (腎臓、甲状腺) とした。なお、肝臓については薬物による適応反応であると考えられるため採用していない。【根拠データ】 (1) ラットを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、3.6 mg/kg/day (雄、区分 1 の範囲)、4.2 mg/kg/day (雌、区分 1 の範囲) で雌に血清コレステロール増加、甲状腺への影響 (濾胞サイズの減少、組織の崩壊、濾胞の高さ増加、核の小胞化) がみられ、36.6 mg/kg/day (雄、区分 2 の範囲)、42.2 mg/kg/day (雌、区分 2 の範囲) で雌雄に肝細胞の核の大小不同・小胞化、甲状腺への影響 (雌雄で細胞質空胞化、雄で濾胞サイズ縮小、組織の崩壊、濾胞の高さ増加、核の小胞化)、雌に肝臓への影響 (肝臓相対重量増加、静脈周囲肝細胞の均一化)、髄質内層の尿管管拡張がみられたとの報告がある。しかし、試験による肝臓、腎臓、甲状腺における分析、描写が存在しないため、病理組織学的解釈は不可能であったとの報告がある (EFSA (2019))。 (2) ラットを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、10 mg/kg/day (雄、区分 1 の範囲) で雌雄に慢性腎炎がみられ、100 mg/kg/day (区分 2 の範囲) で雌雄に肝臓及び腎臓の絶対・相対重量増加、雌に血清コレステロールの増加がみられたとの報告がある (EFSA (2019))。 (3) ラットを用いた混餌投与による 90 日間経口投与試験において、100 ppm (9.3 mg/kg/day (雄)、9.7 mg/kg/day (雌)、区分 1 の範囲) で雌に肝 UDPGT 活性の増加がみられ、300 ppm (23 mg/kg/day (雄)、24.6 mg/kg/day (雌)、区分 2 の範囲) で雄に血漿 FT3 の減少、雌に血漿 TSH の増加、甲状腺炎がみられたとの報告がある (EFSA (2019)、AICIS IMAP (2015)、REACH 登録情報 (Accessed May 2021))。</p>

誤えん有害性

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期 (急性)

データなし

水生環境有害性 長期 (慢性)

長期継続的影響によって水生生物に有害

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
水生環境有害性 短期 (急性)	甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 = 0.0059 mg/L (EU REACH CoRAP, 2019、EU REACH SVHC, 2021) であることから、区分 1 とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急速分解性に関する十分なデータが得られていない。甲殻類 (オオミジンコ) の 21 日間 NOEC = 0.0087 mg/L (EU REACH CoRAP, 2019、EU REACH SVHC, 2021) から、区分 1 とした。
LC50 - 魚 [1]	> 5000 mg/l (Equivalent or similar to OECD 203, 96 h, Alburnus alburnus, Static system, Brackish water, Experimental value, Nominal concentration)
EC50 - 甲殻類 [1]	0.0059 mg/l
ErC50 藻類	> 3.2 mg/l (OECD 201: Alga, Growth Inhibition Test, 72 h, Pseudokirchneriella subcapitata, Static system, Fresh water, Experimental value, GLP)
NOEC 甲殻類 慢性	0.0087 mg/l
BCF - 魚 [1]	6660 – 9140 l/kg (OECD 305: Bioconcentration: Flow-Through Fish Test, 35 day(s), Oncorhynchus mykiss, Flow-through system, Fresh water, Experimental value, Fresh weight)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.7 – 8.3 (Experimental value, Equivalent or similar to OECD 117)
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	5 – 5.2 (log Koc, Experimental value)
Amines, C11-14-branched alkyl, monohexyl and dihexyl phosphates (80939-62-4)	
LC50 - 魚 [1]	5.5 mg/l
EC50 72h - 藻類 [1]	> 10 mg/l
Dec-1-ene, homopolymer, hydrogenated (68037-01-4)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	> 6 (Calculated)
残留性・分解性	
Turmogrease ALN 1001/0	
残留性・分解性	急速分解性でない。
Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
残留性・分解性	Not readily biodegradable in the soil. Not readily biodegradable in water.

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
急速分解性でない	
Dec-1-ene, homopolymer, hydrogenated (68037-01-4)	
残留性・分解性	Readily biodegradable in water.
生体蓄積性	
Turmogrease ALN 1001/0	
生体蓄積性	追加情報なし.
Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
生体蓄積性	High potential for bioaccumulation (BCF > 5000).
BCF - 魚 [1]	6660 – 9140 l/kg (OECD 305: Bioconcentration: Flow-Through Fish Test, 35 day(s), Oncorhynchus mykiss, Flow-through system, Fresh water, Experimental value, Fresh weight)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.7 – 8.3 (Experimental value, Equivalent or similar to OECD 117)
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	5 – 5.2 (log Koc, Experimental value)
Dec-1-ene, homopolymer, hydrogenated (68037-01-4)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	> 6 (Calculated)
土壌中の移動性	
Turmogrease ALN 1001/0	
土壌中の移動性	データなし
追加情報	利用可能なデータはない
Alkanes, C14-17, chloro (MCCP) (85535-85-9)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.7 – 8.3 (Experimental value, Equivalent or similar to OECD 117)
有機炭素吸着係数 (Log Koc)	5 – 5.2 (log Koc, Experimental value)
生態系 - 土壌	Low potential for mobility in soil.

Turmogrease ALN 1001/0

安全データシート

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

海上輸送

非該当

航空輸送

非該当

鉄道輸送

非該当

14.7. IMO 規定に基づくバルク輸送

非該当

15. 適用法令

国内法令

化審法 優先評価化学物質（法第2条第5項）

その他の規制情報

規則参照 本製品のすべての成分は、米国環境保護庁有害物質規制法(TSCA)インベントリに Active として収載されています

16. その他の情報

本書は、あくまで本製品の健康、安全性、環境への配慮等に関わる情報のみを、現在の知見に基づき記載するものであり、製品に関する何らかの特性を保証するものではない。